

ひがしつ子 11月



園長コラム

園庭の落ち葉や木の実など、自然がたくさんの“学びの素材”をくれる季節になってきました。拾った葉っぱの違いを比べたり、集めたものを友だちと並べて模様にしたりと、遊びの中で互いのアイデアを自然に共有する姿が増えています。こうした小さな関わりの積み重ねが、「共に生きる力」の土台になっていきます。

秋が深まるにつれ、子ども同士の関わりもより活発になります。思いがぶつかる場面もありますが、その背景には“こうしたい気持ち”“自分なりの理由”といった一人ひとりの価値観があります。私たちは、ただ仲良くすることを目標にするのではなく、その気持ちが揺れる瞬間を大切にし、「どうしてそう思ったのか」「どう伝えられたらよかったです」を一緒に考えることを心がけています。この積み重ねこそ、園で大切にしている実践です。

また、お店屋さんごっこや遊戯の見せ合いなど、年齢を越えた関わりも豊かになってきました。年長児が自然に手を差し伸べたり、年中・年少児がその姿をまねて優しさを表したりと、異年齢で過ごす時間は思いやりや責任感が育つ貴重な機会です。

これからも、一人ひとりが互いを認め合い、支え合いながら、「共に生きる力」が育むよう、職員一同で丁寧に積み重ねていきたいと思います。

0～2歳児クラスの1か月

季節の発見と“できた”的芽生え

落ち葉や木の実に触れ、季節ならではの発見を楽しむ姿が増えてきました。0・1歳は安心できる大人のそばで探索の幅が広がり、友だちの動きを真似る姿も見られます。2歳は「じぶんで」が芽生え、できたりできなかったりを繰り返しながら成長中です。その子のペースを大切に関わっています。





さつまいも掘り セルバンテス ルイス

それは特別な日でした。

さつまいもを収穫することで、私たちに食べ物を与えてくれる自然を大切にすることを学びました。

子どもたちが作物の収穫に興奮し、「これは大変」「できない、手伝って」と言いながら互いに助け合う姿を見ると、本当に心が温まりました。

特に、この体験を始めたばかりの末っ子たちの姿を見ると、胸が熱くなります。

三人の子どもたちがこの経験をするのを見ていると時がさかのぼり、自分が子どもだったころを思い出します。とても素敵な時間でした。

先生方お一人おひとりに、自然を愛し尊重することを教えてください、特に息子や、言葉を話せないあるいは理解できない子どもたちにとても辛抱強く接してくださいましたことを、心から感謝しています。本当にありがとうございました。



3～5歳児クラスの1か月

深まる関わりと広がるあそび

落ち葉集めや追いかけっこなど、秋ならではの自然に触れながら遊びがどんどん広がっています。友だちと目的を共有し、「こうしよう」「手伝うよ」と気持ちを伝え合う姿が増え、遊びの内容もより豊かに、深くなってきました。言い合いになる場面もありますが、その経験が相手を理解する力につながっていきます。互いに関わり合う中で育つ成長を大切に見守っています。

